

「隣保館としての役割」

1909年貧しい人たちの住む地域に単身移り住み、仕事を始めた賀川豊彦が、その初期に手がけた仕事は目の前にいる人の命を守り、生活を支える事でした。1911年12月の救霊団報（賀川豊彦とその仲間たちが当時発行していた年報）には、次のような仕事が記載されています。

- ・伝道・無料宿泊所・病者保護・医薬施療
- ・無料葬式執行・生活費支持・児童愛護
- ・家庭感化避暑・避暑慰安旅行・職業紹介
- ・一膳飯天国屋の閉鎖・発展と理想
- ・クリスマス祝宴と慰安会・信者の状態

この時の活動は「セツルメント事業」であり、その後日本では隣保事業と呼ぶようになります。

世界大百科事典には、「セツルメントとは、もともとは知識人が貧しい地域に住み込む settle という語意であり、日本では隣保事業という場合もある。ソーシャル・セツルメントの考え方を最初に明らかにしたのは E. デニソンといわれている。彼は 19 世紀後半の慈善・博愛事業が金品を供与して貧民救済をしていることの弊害を批判した。そして貧困を除去するために社会改良が重要であると、このために知識人がスラムに住み込んで貧困についての人々の認識を改めさせると同時に、スラムの人々との知的および人格的接触を通して、その自覚を促していく必要を主張している」と書かれています。



さらに、賀川豊彦はこう言われました。「セツルメント事業の根本原理は人格交流運動である」と。賀川は常にこの考えを徹底し、社会事業における開拓的、実験的役割を果たしてきました。そしてその意志を継いで、賀川記念館は 1963 年に設立され、その精神を実践をしてきました。

当時の大きな仕事は「救貧」でした。そして今また「貧困」ということが言われています。当時の貧困は目に見える、明らかな貧困であったかもしれませんが、現代の貧困はなかなか見えてきません。貧困家庭で育つ子どもやその保護者の普段の生活からはあまり見えてこないのです。しかし、小さなサインが発せられています。貧困が養育を不安定にし、結果として子どもたちと十分に関われない保護者が増えていると思います。「貧困の連鎖」を断ち切る取り組みが必要です。また、神戸市には外国籍等の人々が多く在住しておられます。特に中央区はその数が多い地域です。私たちの保育園でも約 1 割が外国籍等の人たちであり、日本語がわからない、日本の文化、習慣になじめない等のしんどさを持って日本で生活をされていると思います。これらのことは現状では、社会福祉の制度の枠外にある、もしくはようやく考えられるようになったと思われる現代的な課題です。

これらの現代的な課題は隣保館として担っていく必要があります。そしてそのことを考える時、地域を抜きにしては考えられません。地域の中で、困っている、しんどさを抱えている、苦しんでいる人たち、子どもたちがいます。賀川記念館は、賀川がその時代におこなった仕事と同じく、目の前の苦しんでいる人々の声を聴き、その人に寄り添い、その人の自立を支えていく使命があります。賀川の言う「人格の交流」を通して。

館長 馬場一郎

1963（昭和38）年に賀川記念館（写真：旧館）が完成し、隣保館としての活動を開始しました。

第49回 賀川記念館フェスティバル

ご協力 感謝です!! ありがとうございました

11月1日、第49回賀川記念館フェスティバル（バザー）を楽しく、また事故なく終えることができました。天候にも恵まれ、例年通りすべてのコーナーを実施でき、たくさんの人に来ていただき、にぎわいました。入場者も650名を数え、多くのボランティアの皆様、地域の皆様に支えられて開催することができました。

今年も趣旨にご賛同いただき、ご支援・ご協力をいただき、本当にありがとうございました。フェスティバルで得た収益につきましては、その趣旨・目的に沿い、「賀川記念館の働きのために」使わせていただきます。

今後ともご理解・ご支援いただきますように、どうぞよろしくお願いたします。

※最終的な売り上げ、収益は以下の通りです。

感謝をもってご報告させていただきます。

収入計	945,760円（寄付、賛助広告含む）
支出計	217,335円
収益計	728,425円

（岩手県宮古市の障がい者施設で作られた物品の売り上げ 30,540円はそのまま施設に送らせていただきます。）

※収益金につきましては、今年度の目的に沿い

- ①さまざまな人の居場所づくりのために
- ②賀川記念館ミュージアム運営のために
- ③友愛幼児園保育教材購入のために
- ④東日本被災地支援のために

つかわさせていただきます。ありがとうございました。

社会福祉法人イエス団 賀川記念館
フェスティバル実行委員会委員長 祐村 明
館長 馬場一郎



写真：ゲームコーナーのヨーヨー釣り



写真：のみの市の様子



写真：人形劇「ともしび こけし」



写真：エドさんのマジックショー



写真：布引中学校吹奏楽部の演奏

天国屋カフェ 5周年記念講座



写真：豊嶋悠爾さん講演の様子

2010年4月1日に再開した天国屋は、今年5周年を迎えました。これまで継続できたことを感謝して、2つの講座を開きました。まず、カフェで利用している有機栽培コーヒーを生産しているレナート・ンガヤウエン・ギリガンさん(フィリピン・コーディリエラ地方)に1杯のコーヒーが出来るまでの物語を語っていただきました。

第2弾は、コミュニティ・カフェに興味を持って修士論文のテーマに取り上げた豊嶋悠爾さんに「都市におけるコミュニティ・カフェの担う役割」について話してもらいました。5年を経て、これからまた新しい歩みをする上で、よい記念となった講座でした。

子どものポリパン教室

8月22日(土)に、ポリパン・マスターの山口升美さんと太田慶子さんによる『天然酵母ポリパン教室 子ども編』を開催。好評により、2つのグループでの開催となりました。一つは一般応募したグループで、基礎のイングリッシュマフィンを作成。もう一つは、友愛幼稚園に付属する「発達障害児支援くっく」の子どもたちのピザパン作りを行いました。子どもたちの楽しそうな笑い声に包まれたパンは、ふっくら美味しく焼きました。



天国屋ナイトカフェ

7月は台風で中止、8月は夏休み。2ヶ月空いた9月のナイトカフェでは、フェアトレード One village One earth と NPO 法人の地球屋本舗との共催で、障がい者の作品展と詩の朗読を開催しました。悠遠な時間と空間の中で絵画と詩が混じり合う不思議な発表でした。

10月は、7月に中止になっていたエドさんのテーブルマジック！ 期待を裏切らない不思議なマジックに子どもも大人も心を躍らせた一夜でした。

11月は、RSQ(ロマンティック・サクマ・カルテット)による演出。アジアの音楽あり、踊りあり、歌あり。観客の一人でデンマーク出身の宣教師は、80年代のモダン音楽を思い出したと言っていました。

写真上：9月 障害者の作品展

写真中：10月 エドさんのテーブルマジック

写真下：11月 RSQ(ロマンティック・サクマ・カルテット)



総合研究所講演会

「国権と良心」

7月11日(土) 種谷 俊一 元日本基督教団牧師

7月11日、種谷俊一先生を招いて、お話をうかがいました。先生は、これまで4つの教会を歴任され、日本基督教団尼崎教会の牧師であった1970年、学園闘争に参加して警察に追われた高校生2名をかくまい、「犯人蔵匿罪」にあたるとして罪に問われ、日本の法体系で初めて「牧会権」が議論された裁判を闘われた方です。

今回のお話では、冒頭に「国権と良心」というテーマでの話を、「私の信仰告白だと思って聞いてほしい」と述べられたあと、戦時下での厳しい生活と軍隊での体験、受洗から牧師になることを決意しての同志社大学神学部入学、牧会生活の苦労など、これまでの歩みを丹念に語り、深いキリスト教理解と信仰のうちに「神さまが私に役割を与えてくださったから、その役割をしっかりと自覚して働くことが大事」と振り返られました。

「今」の時代について先生は、「みなさんは、この国をどのように受け取っているのか」とフロアに問われ、自民党の作成した「憲法改正草案」の問題性を資料で示されました。そして最後に「憲法はまもらんといかん」と締めくくられました。

長年の信仰生活に基づかれた平和への強い思いがあふれるようなお話に、戦後70年を迎え、平和に逆行するような、国内外の動きに抗していく勇気をいただいたような気がします。



「賀川豊彦と韓国」

9月19日(土) 李 善恵 同志社大学大学院社会研究科助手
日本基督教団洛陽教会協力宣教師

上記の演題で2015年9月19日13:30~15:00に賀川記念館において、講演会を開催した。講演者は、李 善恵さん(2006年からプロテスタントの宣教師として来日、同志社で学び、現在同志社大学大学院社会研究科助手、日本基督教団洛陽教会協力牧師として奉職中)

賀川豊彦が韓国を訪問したのは1920、1924、1929、1938、1939の5回と見られている。その時は日本が韓国を併合していた時代であった。

韓国では、賀川のスラムでの救貧活動や、労働組合活動、農民活動、社会事業活動について既に知られていた。そして、訪韓のたびに行われる講演会により賀川を理解する人たちが増えていた様子が窺えた。

賀川の韓国での評価は彼の日本での活動により非常に高いものがあったが、否定的なものもあった。それは支配者の施策の一部の活動ではないかと見られていたためであろうとのことであった。しかしながら、彼は多くの韓国人に影響を与えたと言うことであった。少なくとも8人の牧師や教師の名前をあげ、賀川から大きな影響を受けて障がい者と共に歩んだ人々や、農民のために生きた韓国人、また教育の現場で賀川の社会福祉



実践の思想を教え、間接的に実戦に参加させた朱善愛や金徳俊などがいた。また、生協や農協の設立に影響を与え、韓国内で組織体を通じて社会問題を根本的に、また長期的に改善する助け合いの社会を作ろうとした人々が生まれてきたことも紹介された。

このように韓国と賀川の関係は、賀川個人の思想や業績に対しては肯定的に評価されていたと思うが、同時に賀川が訪韓した時代背景(日本が韓国を支配)から、彼は日本と韓国との問題の尻拭いを自ら行っていたのではないかと思いながら講演を聞いた。何れにしても、歴史的な事実の裏付けをされた上での日韓関係とそれに関わりながらの賀川の独自の活動を聞くことができ、有意義な時間であった。

外国人とのコミュニケーションのための

「やさしい日本語講座」

10月24日(土) 神戸YWCA

私たちの施設がある神戸市中央区には多くの外国籍等の方々が入居しています。友愛幼稚園では全体の1割が外国籍等の子どもたちです。入園した時には日本語はまったくできません。それでも子どもたちは生活の中で、生活に必要な日本語を習得していきます。でも保護者はそうもいきません。保育園でお知らせしなければならないことや守ってほしいルールを説明することや、何より子どもの健康や発達のこと、保護者と話をしながら子育てを進めていきたい、そのことが困難になっています。こういう時に専門の通訳の方がいればいいのになあと思うことがあります。それが難しいことです。

今回、神戸YWCAの講師を招いて、「やさしい日本語」を学びました。その方の国の言葉を話せなくても私たちが日常使っている日本語をわかりやすく話し、理解してもらう方法です。当日は講義の後、グループで話し合い、外国の方に来てもらって、難しい内容をどのようにわかりやすく伝えるかを学びました。

地域の中で私たちが意識しなければならないことだと思えます。私たちがその人たちの立場に立って、わかりやすく伝えていく、そのことは心を通わせていくことなのだ改めて考えさせられました。

「子どもと家族に寄り添うために…」

—子どもの虐待の現状と課題について考える—

11月7日(土) 側垣 一也

社会福祉法人三光事業団 理事長・総合施設長

西宮で長く児童養護施設をされておられ、今は保育園の園長であり、総合施設長でもある側垣一也さんに子どもの虐待の現状とその課題をお話いただきました。

虐待が増加している背景にはさまざまな要因があることがわかります。その最前線に立たれて子どもたちをみてきたお話には心を打たれます。虐待をしてしまう人と気持ちを通わせる難しさ、その人自身が変わっていくしんどさ、虐待を受けた子どもの深刻な状態、私たちはどのように取り組んでいくべきなのか、が問われました。

その中でも、「こまった親」ではなく、「こまっている親」なのだという視点。深刻な状態でも、少しずつ回復していく子どもたちの様子……。側垣さんのやさしい眼差しの中で、事態がよりよく変化していくこともお聞きしました。

私たちの法人も子どもたちのための施設を運営しています。子どもたちを通して、家庭を見る目を養い、さらに保護者と心通わせること、「こまっている子ども」「こまっている保護者」に寄り添っていくことの大切さを学ぶことが出来た時間になりました。



「賀川豊彦の著書を 世界に広める活動」

賀川豊彦の著作を世界に広める運動を、小さなグループで進めています。その集まりを11月18日に持ちました。

メンバーは、

Thomas J.Hastings (トーマス ヘイスティングスさん)

賀川先生と同じプリンストン神学大学での大学院博士過程修了、1987年に来日、東京神学大学などで教鞭をとられ2008年米国に帰国、日本国際基督教大学財団(ニューヨーク)主任研究員を経て現在 United Board for Christian Higher Education in Asia (ニューヨーク) 研究プロジェクトコンサルタント、牧師、賀川先生の著作を翻訳することを使命と感じている、すでに「宇宙の目的」「暗中隻話」を英訳済み、「爪先の落書き」「空中征服」を翻訳中

鳥飼慶陽さん

約半世紀の間、神戸番長地区の在宅牧師として、地域の人々のために働いた賀川精神と実践の継承者、現在、賀川研究に没頭し賀川ブログをほぼ毎日3本書いている賀川研究の第一人者

伴 武澄さん

元共同通信のデスク、賀川先生の作られた「国際平和協会」の理事長、ブログの「Think 賀川」は始めてから約10年以上になる。3年前から賀川先生の著作をKindleに掲載する活動を始め、すでに33冊を世に出している。100冊を目標に作業を行っている賀川教の一人。

Timothy Boyle (ティモシー ボイル) さん

関西学院大学経済学部宗教主事、牧師、1971年からカルフォルニアの日米教会の牧師を務め2005年来日、今回『劇画・死線を越えて』の英訳を担当

山田洋一さん

賀川記念館主任・賀川記念館の実務担当者

西 義人

賀川記念館の参事、ミュージアムの企画・運営担当
以上のメンバーが11月18日賀川記念館に集まり、お互いの現在の進捗状況の報告会を行い共有化を図った。また賀川先生の著作を世界に広める努力をより一層強めることで意志統一した。

これまでに出版した書籍

伴 武澄さんが復刻された書籍

*電子図書「賀川豊彦セレクションX」第1期全10巻(4000円)
「キリスト山上の垂訓」「雲水遍路」「その流域」「第三紀層の上に」「柘榴の半片」「星より星への通路」「キリスト兄弟愛と経済改造」「世界国家」「十字架に就いての瞑想」「涙の二等分」
2016年早々に劇画「死線を越えて」の英訳が電子図書として出版される予定です。

*電子書籍「賀川豊彦セレクションX」第2期全10巻(4000円)
「死線を越えて」「太陽を射るもの」「壁の声を聞く時」「傾ける大地」「空中征服」「馬の天国」「小説キリスト」「少年平和読本」「日本共同組合保険論」「医療組合論」「宇宙の目的」

ヘイスティングス先生が翻訳された書籍

*「Cosmic Purpose」(宇宙の目的)

*「A Few Words in the Dark」(暗中隻話)

ボイル先生が翻訳された劇画



賀川記念館ミュージアム 神戸市立中央小学校4年生が 賀川豊彦の学習のために来館！

中央小学校の4年生は、総合学習という日があります。2015年10月21日(水)はちょうどその日でした。朝11時に4年生100名が賀川記念館を訪れました。静かに一列に並んでイエス団教会の礼拝堂に入り、長椅子に5人掛けて座り前をしっかり見て静かに待ちました。立派な態度です。

この日のために作成されたパワーポイント『賀川豊彦はどんな人だったのでしょうか?』を使っの60分の説明をしっかりと聞き勉強しました。

賀川豊彦はノーベル平和賞の候補に4回なり、ノーベル文学賞の候補に2回なり合計6回ノーベル賞の候補になった人との説明には、ちょうどその頃日本人で受賞した方が3人出たこともあって、4年生の諸君もノーベル賞には関心があったためか、賀川豊彦はすごい人だったのだと感心ひとしきりでありました。なぜノーベル賞の候補になったのか、あるいはなぜ『賀川、ガンジー、シュバイツワ〜』が世界の3大聖人と言われたのか。そしてなぜ生協(コープ)を作ったのか、なぜ農民組合や、JA共済を作ったのかについての説明に、一生懸命耳を傾けていました。大変立派な受講態度でありました。日頃の先生方のご指導が目につかぶ100人の態度でした。

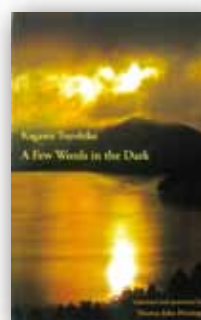
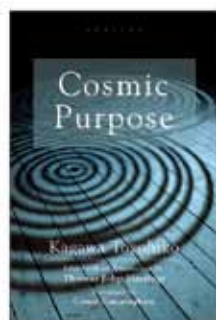
また来年も次の4年生が地元が生んだ世界的な偉人のことを勉強に来てくれることを楽しみに待っています。



写真上：神戸市立中央小学校見学の様子

写真左：ヘイスティングス先生を交えた集まりの様子

写真下：ヘイスティングス先生が翻訳された書籍





鳥飼慶陽さんのコラムKAGAWA GALAXY (2) 3回シリーズの第2回です。

鳥飼さんは、1966~1968年、神戸イエス団教会伝道師として活躍され、その後、賀川豊彦に倣って長田区に「番町出合いの家」を開設されました。賀川豊彦の研究者であり、現在は賀川豊彦の同労者にフォーカスをあて多くのブログを公開されています。

今回取り上げる「馬島儼(まじまゆたか)」——この写真は鳴門市賀川豊彦記念館の展示図録「賀川豊彦」のもの——は鳴門市の出身、新居格の評伝を著した和巻耿介による馬島の伝記『怪物医師』(光文社文庫)は広く知られています。

彼は名古屋で生まれ、賀川や新居と同じ徳島中学で学び、愛知県立医学専門学校を卒業して徳島市内の病院で医師をはじめた時、賀川豊彦の活動に深く共鳴し、賀川のもとでの医療事業に参画しました。

大正6年5月、賀川は米国留学から戻りすぐ小冊子『慈善・イエス團医院設立趣意書』を作成し、同年7月には賀川を主事に、医師1人、看護婦3人を以て、神戸市葺合区吾妻通5丁目6-27に無料施療救済所「イエス團友愛医院」を発足させました(その正式認可は同年8月27日)。

最初姫野正義医師が診療に当たり、翌大正7年7月より馬島医師が着任したあと、「新川」に加えて新たに、馬島の名で神戸市林田区(現在長田区)四番町5丁目8番地に「イエス團長田友愛救済所設立許可願」を準備した書類が松沢資料館に残っています。



「神戸新聞」(大正9年3月7日)と「毎日新聞・兵庫県付録」(大正10年7月1日)の記事によれば、地元の有力者の協力を得て五番町5丁目81の所屋に馬島医師一家(5人)が移り住み、午前は「番町」、午後は「新川」で毎日数十名の診療を行っていたことが写真入りで詳しく載っていますから、出張所の設立場所は「五番町5丁目81」でしょう。

しかし馬島が神戸で医師として活動するのは僅かに3年ほどで、大正10年7月には、賀川の勧めと援助を受け、シカゴ大学とベルリン大学への留学を果たします。馬島は留学先から武内勝宛の絵葉書や村島帰之宛ての書簡(これは新聞記事として)なども残されていることは、賀川記念館のHPでご覧いただけます。

馬島は留学を終えて大正12年2月に帰国しますが、同年9月1日に起こったあの関東大震災の救援のため、賀川の活動拠点が東京本所に移されたことに伴い、馬島も神戸を離れて本所での無料診療所の開設や江東消費組合の設立などに参画し、その後産児調節の啓蒙や麻薬中毒者の援助に尽くすなど、波乱にとんだ生涯を送りました。

イエス團友愛救済所の働きは、馬島医師のあとに於生(おせい)泰造医師が引き受け、さらに賀川ハルの妹・芝ヤヘ医師が大正14年3月から昭和20年6月まで長期にわたり、地道な献身的活動を継続しています。

ところで、賀川生誕百年記念につくられた『賀川豊彦写真集』

には「イエス團友愛診療所で診察中の馬島医師」と説明書きのある左の写真があります。これは大正8年11月に兵庫県が刊行した『社会救済事業写真帖』に載せられたものです。この『写真集』には、もう一枚「イエス團診療所」とだけ説明書きのある右の写真が収められています。これはいつどこで撮られたのでしょうか。

先日賀川記念館で「賀川豊彦先生関係資料」と書かれた一冊のコピーファイルに出会いました。それは財団法人イエス團理事長・賀川豊彦による「社会福祉法人への組織変更申請書」(昭和27年3月)という重要書類の一式コピーです。

この書類には、イエス團の名称が「財団法人イエス團友愛救済所」から「財団法人神戸イエス團」「財団法人イエス團」へ変更され、主たる事務所も「神戸市葺合区5丁目3番地」から「葺合区日暮通6丁目6番地」「葺合区吾妻通5丁目3番地」「長田区四番町4丁目76」「葺合区吾妻通5丁目3番地の17」へと移動してきたことが記されています。そして「申請書」の提出された昭和27年3月の段階では「イエス團診療所」は消えて「長田診療所」の名称となり、その所屋は「長田区四番町5丁目10番地」にあつて「木造瓦葺平屋建」とされています。

既述のとおり「イエス團友愛救済所長田出張所」は最初五番町5丁目81に開設され、戦前イエス團は四番町4丁目76に「天隣館」を開館し、昭和20年6月5日の神戸空襲により「新川」のイエス團本部が焼失したあと、戦後昭和24年3月にイエス團が元の場所に再建されるまでの間(登記簿では「昭和21年3月31日~昭和24年3月15日」)イエス團の本部事務所は「天隣館」に置かれ、診療活動もそこで行われていたのではないかと推測できます。そして武内勝宛の賀川豊彦の書簡(昭和26年9月18日付)には「長田診療所買入・修理」のやり取りが残っていますので、この時点で上記の「長田診療所」の所屋を確保したものだと思います。しかしこの「長田診療所」はいつまで続き、「イエス團診療所」の看板のあるこの写真は、いつどこにあったものなのか未解明のままです。先年目にした「イエス團事業報告」には「昭和22年内務省はイエス團の診療復興のため金65万円也を交付されることになり、兵庫県はその予算をもって生田区花隈町117に診療所を設けたので、イエス團診療はここに復興したのであります」として財団法人イエス團経営の施設に「イエス團診療所」があげられていました。ならばこの写真は花隈町にあったのかもしれませんが、まだまだわからないことばかりです。(真部マリ子さんと近藤孝子さんのご助言深謝)



賀川記念館 賛助会から

いつも賀川記念館をお支えいただきましてありがとうございます。
2015年7月1日から11月30日までの報告をさせていただきます。

賛助会費	468,000円
寄付金	1,961,727円
友愛幼児園寄附	72,830円
真愛ホーム寄付	5,000円
フェスティバル寄付	217,000円
合計	2,724,557円

これからも皆様のお支えにより、さまざまな活動を行ってまいります。今後とも引き続きご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

- 8 (水) 徳島生協9条の会 (見学)
- 10 (金) 生誕の碑清掃
- 11 (土) パン教室 総合研究所講演会 (種谷俊一氏) 関学山本ゼミ (講演・見学)
- 12 (日) 香港グループ (見学・説明) 全労済埼玉県・神奈川県・山梨県 (講演・見学)
- 13 (月) 全労済宮城県本部 (講演・見学)
- 14 (火) 全労済群馬県本部・神奈川県本部 (講演・見学)
- 22 (水) 全労済栃木県本部・静岡県本部 (講演・見学)
- 24 (金) JA静岡中央会 (講演・見学) 啓明学院YWCA部 (見学) 全労済神奈川県本部 (講演・見学)
- 28 (火) コープ住宅 (講演・見学) 天国屋開業5周年感謝講座
- 30 (木) ひょうご部落解放・人権研究所 (見学・説明)

8月

- 5 (水) 淡路市人権推進課 (講演・見学)
- 6 (木) 語り部の会
- 8 (土) 淡路市人権推進課 (講演・見学)
- 10 (月) 布引中学校 (出張講演)
- 11 (火) コア100賀川 (JF漁連)
- 19 (水) ヨハン浜松キリスト教会 (見学)
- 20 (木) 全労済中日本事業部 (講演・見学)
- 21 (金) 長田区役所 (講演・見学)
- 22 (土) 子どもパン教室
- 25 (火) 外：全労済東日本・東京本部
- 27 (木) 香港グループ (見学)

9月

- 1 (火) 全労済青森県本部 (講演・見学)
- 4 (金) 全労済会員生協 (講演・見学)
- 5 (土) コープあいち (見学)
- 7 (月) 外：JA,Coop 合同研修
- 10 (木) 部キ連 (講演・見学)
- 11 (金) 全労済青森県本部 (講演・見学)
- 12 (土) 天国屋カフェ開業5周年感謝講座
- 15 (火) 駒沢大学ゼミ生 (講演・見学) 全労済山形県本部 (講演・見学)
- 16 (水) 全阪急労働組合協議会 (講演・見学)
- 18 (金) ナイトカフェ
- 19 (土) 総合研究所講演会 (李善恵氏)
- 29 (火) 全労済北海道本部 (講演・見学)

10月

- 6 (火) コープ滋賀東地区事務所 (講演・見学) 全労済山形県本部 (講演・見学)
- 12 (月) 日本伝道会議 (講演・見学)
- 13 (火) 全労済北海道本部 (講演・見学)
- 16 (金) ナイトカフェ
- 17 (土) 神戸定住外国人支援センター (賀川ウォーク) 加古川東高校 (講演・見学)
- 18 (日) 鳴尾教会 (講演・見学)
- 20 (火) 全労済山形県本部 (講演・見学)
- 21 (水) 神戸中央小学校4年生 (講演・見学) 全労済北海道本部 (講演・見学) 宝塚めぐみ教会 (見学)
- 27 (火) 吹田市人権協 (講演・見学) 全労済茨城県本部 (講演・見学)
- 29 (木) 近畿労金相生支店 (講演・見学)

11月

- 1 (日) 賀川記念館フェスティバル
- 2 (月) コープおきなわ (講演・見学)
- 3 (火) 全労済千葉県本部 (講演・見学)
- 4 (水) 北神コープ委員会 (講演・見学) 日本大学経済学部 (見学)
- 6 (金) 全労済岩手県本部 (講演・見学)
- 7 (土) 総合研究所講演会 (側垣一也氏)
- 10 (火) 関西聖書神学校 (講演・見学)
- 18 (水) ヘイスティング氏懇談会
- 19 (木) 東神戸リハビリバルチャベル (見学・説明)
- 20 (金) 兵庫県県立中高社会科教員研修会 (講演・見学)
- 24 (火) ひょうご部落解放人権研究所 (講演・見学) コア100賀川
- 25 (水) 全労済愛知県本部 (講演・見学)
- 30 (月) コープこうべ (出張講演) 東淀川区社会福祉協議会 (講演・見学)

記念館ミュージアム入場者数

7月	一般	38名	団体	491名	行事	215名	合計	744名
8月	一般	32名	団体	67名	行事	40名	合計	139名
9月	一般	26名	団体	265名	行事	122名	合計	413名
10月	一般	42名	団体	415名	行事	115名	合計	572名
11月	一般	21名	団体	263名	行事	157名	合計	441名

賀川記念館賛助会ご入会のお願い

賀川記念館は、賀川豊彦献身100年を記念して、2009年12月に新たに建て替えられました。今を生きる私たちの献身拠点として、2010年4月より活動を開始いたしました。「一人は万人のために、万人は一人のために」を標語とし、「みなさんとともに生きる社会」を目指して事業を進めてまいります。ぜひ、賀川記念館賛助会へご入会くださり、記念館の働きを支えてくださいますようお願い致します。

賛助会

賀川記念館の働きを支援することを目的としています。

賛助会会費

年額は下記の通りとし、一口以上、上限はありません。

個人：一口1,000円 団体：一口10,000円

会費は年度ごとの更新とします。

賛助会員入会と退会

「賀川記念館賛助会 入会申込書」に必要事項をご記入いただき、会費を納入ください。退会される場合は事務局までご連絡ください。

賛助会費の使途

賀川記念館の諸事業に活用いたします。

賛助会費の税控除

個人の方は、所得税にかかわる寄付金控除の対象になります。団体の方は、法人税法により「損金算入」することができます。領収書をご希望の方はお申し出ください。

賛助会費のお振り込み方法

郵便局：01140-8-3721 社会福祉法人イエス団 賀川記念館
銀行：三井住友 三宮支店 普通 3253938

賀川記念館の歩み

2015年

7月

- 1 (水) 全労済長野県本部 (講演・見学)
- 2 (木) JA愛知中央会 (講演・見学) 関学 (出張講演)
- 3 (金) 宝塚教会 (見学) 全労済東京都本部 (講演・見学) 韓国基督教歴史研究所 (見学)

友愛幼稚園

「体育遊び」

友愛幼稚園の今年度の新しい取り組みのひとつとしてYMCAリーダーの指導による「体育遊び」があります。

毎月1回、ちゅうりっぷ組(3歳)9時45分～10時15分、れんげ組(4歳)10時15分～10時55分、すみれ組(5歳)10時55分～11時45分の時間で、クラスごとに集合し、あいさつをして体操をします。その後、マット、鉄棒、平均台、跳び箱、フープなどを使って、くぐる、登る、回る、止まる、跳ぶなどを取り入れたサーキット遊びをします。次に年齢に応じた運動をゲーム形式でグループで競ってします。

子どもたちは皆、いきいきとそしてのびのびと取り組んでいます。苦手意識をなくし、できそう! やってみよう! できた! という意欲を持って参加する事を大切にしています。正しい姿勢で鉄棒や跳び箱も、少しずつ出来るようになってきています。最後はリーダーと「ありがとうございました!」のあいさつで終了です。保育士も基本的な正しい運動の仕方をもう一度確認する良い機会を得ています。子どもたちは楽しみながら、ルールを守る事や待つこと、話を聞くことなどを体験しています。これからも継続して、取り組んでいきたいと考えています。



神戸イエス団教会

去る11月15日(日)の午後。クラウディア宣教師による英語礼拝が開催された。在神戸の外国籍の方々、英語に興味のある日本の方々などが、出席された。今後、英語礼拝を必要とされている方々に広く知って頂きたい。まずは、月一回のペースで礼拝を守る予定。詳細は、賀川記念館または神戸イエス団教会までお問い合わせください。

日本キリスト教団 神戸イエス団教会
tel 078 (251) 4870



テナント募集のご案内



物件種目：医療用貸店舗
最寄駅：阪神「春日野道」駅
賃貸条件：テナントD 271,950円/月(税込)
敷金 賃料の10か月分
敷引 3か月分
物件所在地：神戸市中央区吾妻通5-2-20
交通：阪神「春日野道」駅徒歩8分
阪急「春日野道」駅徒歩10分
建物名：社会福祉法人イエス団「賀川記念館」
構造・規模：RC造5階建
使用部分面積：D区画：約25.9坪
築年月：2009年11月
管理費等：D区画27,195円
駐車場：店舗南側に来客用駐車場有り
備考：内装工事は指定業者有
外部看板指定有(有償)

お問い合わせは Tel: 078 - 221 - 3627

年末年始のお知らせ

賀川記念館ミュージアムは、12月28日(月)～1月4日(月)休館いたします。
天国屋カフェは、12月19日(土)～1月6日(水)休業いたします。

天国屋ナイトカフェ 2015年1月15日(金) 17:30～



賀川記念館
KAGAWA MEMORIAL CENTER
社会福祉法人・学校法人 イエス団

発行日 2015年12月15日
発行者 馬場一郎
発行所 賀川記念館
〒651-0076 兵庫県神戸市中央区吾妻通5-2-20
tel: 078-221-3627 fax: 078-221-0810
ホームページ <http://core100.net>
お問い合わせ E-mail office@core100.net